

日本アントロポゾフィー看護協会会報 NO.2

JAPANESE ASSOCIATION FOR ANTHROPOSOPHIC NURSING NEWSLETTER No.2

SUMMER 2022

Saeri Kubo "Water and angelic creatures"

Contents

- ◆「リズムカルアインライビング」が商標登録されました（久保さえり）...1
- ◆人間の本质に触れるアントロポゾフィー看護を（石濱すずな）...1
- ◆リズムカルアインライビング認定施術者の皆さまへのブラッシュアップ講習のご案内...2
- ◆2023 年開催アントロポゾフィー看護（AN）アップグレードコースのご案内...3
- ◆リズムは生命を担う（サーシャ・グローア）...4
- ◆掲示板...6
- ◆日本アントロポゾフィー看護協会創設に寄せて（浅田豊）...7
- ◆国際アントロポゾフィー看護ゼミナール：第3期がほぼ修了しました！（揚妻由美子・辻真紀）...8
- ◆アントロポゾフィー医学の視点からの胎生学③受精～初期発生（小林誠）...10
- ◆オンライン交流会はじまりました！...17
- ◆編集後記...17



「リズムカルアインライビング」が商標登録されました

一般社団法人日本アントロポゾフィー看護協会の会員の皆様

初秋の季節とはいえ暑い日が続いていますが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。

昨年 6 月に商標登録申請をしておりました「リズムカルアインライビング」が商標登録され、10 年間の商標権を得ましたので、ここにお知らせいたします。

この商標権は、10 年後の権利消失前に更新手続きをすることで権利を継続することができます。

指定役務として、下記のように登録しています。

- ・オイルを使用したマッサージの知識及び技術の教授、資格の認定、セミナーの企画・運営又は開催
- ・代替え医療を含む医療看護、あん摩、マッサージ及び指圧、アロママッサージ

つきましては、商標登録マーク（®）を「リズムカルアインライビング®」と適宜表示していくことで、商標登録されていることを示していきます。

この商標登録は、「リズムカルアインライビング」を日本アントロポゾフィー看護協会が独占しようとするものではありません。「リズムカルアインライビング」が、アントロポゾフィー看護の技術として、正しく一般の皆様にも認識していただき、アントロポゾフィー看護の考えの基にその技術が広がっていくことを目指します。

JAAAN 代表理事 久保さえり

人間の本質に触れるアントロポゾフィー看護を

監事 石濱すずな

定員 15 人の NPO シュタイナーこども園に、子ども達が通ったご縁で、シュタイナー教育とアントロポゾフィー医療看護の世界を知りました。

看護ゼミ三期生に途中編入し学び始めてからは、人間の姿を肉体的だけではなく、バイオグラフィー、宇宙全体、霊的な視点、等から観察し理解しようすることに深く納得し、「人間の本質に触れた」と感じて、さらに引き込まれました。

この度、看護職の会が新しく法人化スタートの機会に、監事の一人として関わらせていただくことになりました。まだ学びの途中ですが、今に繋がるご縁を大切に、今の自分にできることがあればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



リズムカルアインライビング認定施術者の皆様への ブラッシュアップ講習のご案内

リズムカルアインライビング認定施術者の会員の方には、すでに会員メールでお知らせしていますが、Covid-19 感染拡大により、2019 年から実施できていなかったブラッシュアップ講習を、今年 8 月から順次開催いたします。下記の通り、支部ごとに 4 箇所、そして該当者の多い関東と関西は 2 回に分けて計 6 回計画しています。

◆会場・日程（予定）

支 部	会 場	日 程（予定）
関東支部	すみれが丘ひだまりクリニック	①11 月 6 日（日） ②12 月 11 日（日）
中部支部	あげつまクリニック	11 月 27 日（日）
関西支部	京田辺市社会福祉センター	①10 月 8 日（土）
	ほっとメンタルクリニック	②11 月 3 日（木・祝）
九州支部	未定	11 月 20 日（日）

◆受講料：2100 円×6 単位＝12,600 円（1 単位＝45 分）

◆お申込・お問い合わせ：各所属支部の担当者または

当協会 HP の問い合わせフォーム

<http://www.anthro-nr.jp/contact>



すみれが丘ひだまりクリニック

上記のように、今年のブラッシュアップ講習の実施を予定していますが、7 月に入りコロナ感染者数が急激に増えてきています。この状況からも先がまた見えなくなってきました。政府は、重症化リスクは少ないと行動制限はそれほど強く勧めていません。感染すれば症状は軽く重症化は少ないと安心して良いのかは、わかりません。従いまして、状況によって実施できないことや参加を断ることがあること、また、他の支部への参加は見合わせていただくこともあり得ることを、そして、最終的な状況判断は、各部署の担当者が行ないます。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

リズムカルアインライビングスペシャリスト一同

アントロポゾフィー看護（AN）アップグレードコースのご案内



アップグレードコースは、国際 AN ゼミナールを修了した方々に対して、新しく改訂された AN 基礎コースに相応するレベルにアップグレードできるコースです。このアップグレードコースは、2024 年から開催を予定しています第 4 期国際 AN ゼミナール（新 AN 基礎コース）に先駆けて開催します。

我が国では、AN ゼミナールを、QAN（アントロポゾフィー看護の質を守る認定機関）認定の AN 基礎コースとして実施してきました。IFAN（アントロポゾフィー看護のための国際会議）は、2 つのスペシャリスト育成に繋がる基礎コースとしての AN 基礎コースとリズミカルアインライビング（RE）基礎コースを認めてきました。AN 基礎のコースでは、RE を深く教える内容として扱われてきていません。また、RE 基礎コースでは、AN を十分理解できるほどの知識が教えられてきていません。近年各国での RE の需要が高まっていくに従って、RE が AN から離れ、一人歩きする傾向が強くなってきたことを IFAN は問題視しました。この 2 つ（AN と RE）の基礎コースを一つに統合した学びが、アントロポゾフィー看護師の基礎教育であると結論付けられ、それに伴いスペシャリストへの道筋も 1 つになります。

現在、IFAN 認定のスペシャリストコースは、RE スペシャリストコースと AN（一般）スペシャリストコースの 2 種類のスペシャリストコースが認められていますが、近い将来、小児、緩和ケア、認知症、発達障害などの各専門分野のスペシャリストコースの開催を検討しています。**この新 AN コースの修了により、アントロポゾフィー看護師（RE プラクティショナーであることも意味します）の称号の使用を認め、スペシャリストコースへの受講資格が得られることとなります。**ただし、我が国では、現在スペシャリストコースの開催は予定していません。

- ◆日 時：2023 年 5 月 2 日から 7 日まで（6 日間）の受講とその後 1 年をかけて課題や自己研修を行い 2024 年 5 月に修了予定。
- ◆会 場：あげつまクリニック（豊田市）
- ◆講 師：Sasha Gloor さん 通 訳：浅田豊さん
- ◆募集人数：10 名～12 名
- ◆参加条件：一般社団法人日本アントロポゾフィー看護協会の会員であること。国際アントロポゾフィー看護ゼミナール（AN 基礎コース）の修了生で、アントロポゾフィー看護における人間の 4 つの構成要素及び三分節を理解していること。及び、全身 RE を正しい手順で、自信を持って実施できることが、必須条件となります。

* 現在、カリキュラム等の詳細な実施内容を主任講師と検討しています。詳細なコース案内と募集案内は追ってお知らせいたします。

アントロポゾフィー看護スペシャリスト一同



リズムは生命を担う

Rhythmus trägt leben

サーシャ・グローア

Rhythmus trägt leben「リズムは生命を担う」ー ルドルフ・シュタイナーのよく知られた言葉です。コロナパンデミックが発生してから、この言葉をたびたび思い出しました。私たちは普段慣れているリズムから外れてしまったのです。日常のリズムは遮断され、非常に多くの職業の人々が、普段慣れている毎日のリズムを失い、ホームオフィスの日常というまったく未知の要求に、ちょっと戸惑っていました。

私たちの自然療法の診療所はロックダウンの時に一時的に閉めざるを得ませんでした。私は電話やスカイプで患者さんたちと、自分を整えること、社会的なコンタクト、あるいは一日の生活を構造付けることについて、このパンデミックの初めの時期ほどたくさん話したことはありませんでした。もちろんこれらは前から重要なテーマであり、たびたび治療の中に流れ込んでいきましたが、これらが全く突然前面に出てきたのです。私たちは以前にも増して、自分の日常生活と家族のリズムを突然構成しなければならなくなりました。そしてそれを様々な人間たち、たくさんの要求、様々な団体との間で調整しなければなりません。ホームオフィスで働く両親たち、ホームスクーリングの子どもたち、スカイプを通じての両親の世話、そしてそれらすべてを自分の部屋でやらなければなりません。通勤の道と時間のリズムは突然なくなってしまいました。雨の日に自転車で走ったり、また満員電車に乗ったりしている時間は休息の時間とは言えませんが、それが突然別の光のもと

に見られるようになります。ここからあそこに移動することは、距離を与えてくれ、時間的休憩を与え、様々な行為や課題の間に距離を与えてくれます。もしかしたら全く気にもとめていなかった構造とリズムが、今や欠けているのです。

ある女性の患者さんが私に話してくれたのですが、彼女は毎朝出勤する時に、犬を連れた年配の男性に会って挨拶していたのです。この朝の挨拶がなくなって寂しいと言っています。彼女は家でコンピューターを使って仕事をしています。この男性のことをよく知っているわけでもないし、名前も知らないのですが、この犬を連れた男性が元気かどうか、心配になります。この毎日の出会いは彼女にとって重要だったのです。それで、この年配の人のことが気になってきました。

ある同僚の女性が私に、「あなたは看護の仕事をしていて全く普通の日常生活がある。それがどんなに素晴らしいことかわからないでしょう」と言いました。パンデミックになって、日常生活というものが新しい価値を持ってきたようにさえ思われます。とても気持ちのいい日常生活で、私たちに力と満足を与えてくれるのです。たくさんの患者さんが突然、熱意を込めて彼らの日常生活について語り始めました。いつも厳しい態度で人との間に距離を置いているようなある女性の患者さんが私に言いました。「事務所の同僚の人たちはいつもおしゃべりばかりしていてとても気に障っていたんです。でも今はそれがどんなに懐かしいか！ 私は彼女たちに、もうちょっと静かにして

とよく言ったものでした。今うちにいるとこんなに静かで、あのおしゃべりが懐かしくなります」。

スイスの最初のロックダウンの時、私はきのこについての本を読みました。「地下にある大きなネットワーク「the wood wide web」」がテーマです。この報告によると、森全体が大きな有機体と考えられます。そこではさまざまな種類の植物が結びついていて、お互いに情報や栄養素材を受け取っています。きのこは木から栄養を受け取りますが、その代わりに木にも栄養を与えています。それは一つの大きな編み物のようで、それは森にとって重要な情報も与えています。その研究によると、植物はお互いに警告を与えることができるのです。——注意！ 食い意地の張った昆虫がやってきた。みんな苦い素材を排泄しなさい。そうしたら昆虫はみんなの葉っぱを食べないでしょう！ ——特に非常に古い木は、若い世代にたくさん助言を与えているようです。ちょうど両親が子どもたちに、人生における重要な原則を伝えるのと同じです。このさまざまな種類の植物の結びつき、そして大きな木と小さな木との結びつきが森を作り、それを生き生きと健康に保っています。ある森林管理官の話では、地面の下で時々、いろいろな種類の植物の間の大きなおしゃべりがあるということです。私たちがこの「wood wide web」の情報を解読できないために、人間には森がとても静かに見えるのです。

ネットワークでつながれた森と、植物のおしゃべりという見方はとても気に入りました。植物たちは生きのびるために重要な情報を交換し、時にはなんだか楽しく話合っているようです。私たち人間と似たようなものではないでしょうか。私たちもはっきりと構成された職場のミーティングで、ただ必要な情報を交換するだけではありません。私たちもお互いに結びついて話し合ったり、興味や共感を示したり、また議論をするのです。



このような意見の交換はよく休憩の時に行われます。音楽と同じように、大きな休憩と小さな休憩が私たちの日常生活を作っています。はっきりとした拍子、繋がっていくメロディー、休憩、そしてさまざまな音の強さのリズムが、私たちの日常生活を形作り、それを豊かにして、かけがえのないものにします。ホームオフィスで仕事をしていると、このリズムの一部が欠けているのです。ルドルフ・シュタイナーが言うように、このリズムが生命を担っているのですから。そして多くの人は、彼らが日常生活によってあまり支えられていないことを、孤独として、また人を圧迫するような、不健康な静けさとして体験しているのです。

森は話し合っているだけではなく、栄養素材も提供しています。別の言葉で言えば、その中の住民の面倒を見ているのです。私たち人間はこれがよくできるわけではありません。

買いだめをする人のことが新聞でよく話題になりました。食料品、水、そしてトイレトペーパーでさえ買いだめして、自宅にしまっておくのです。これを他の人と分け合うのではなく、危機が来た時に自分が優位に立つためにためておくのです。各

国がそれぞれマスクを買い占めたので、病院ではマスクが不足しました。森の社会的構造を、人間がわずかしか持っていないことはまさに驚くべきことです。

しかしこれは一面でしかありません。私は人々が買い物の時に年配の隣人を助けることを目撃しました。お店に入れる人の人数が制限されていたので、ショッピングセンターの前に長い列ができていたのです。私の母はもう 80 歳をこえていますが、まだまったく自立しています。隣の人が、もしかしてあな

たも私と同じようにスープが好きかもしれないと思ったものですからと言って、突然暖かいスープを持って来てくれたのです。

ある日曜日のこと、私たちのうちのベルが鳴りました。隣の女性がケーキを２個持って来てくれたのです。彼女は今ちょうどケーキを焼いたので、この家に住んでいる人みんなにケーキを持って来たのです。

このような態度はまったくスイス人的ではありません。スイス人は普通は自分でケーキを焼いて自分で食べます。それをいろんな人に配ることはしません。そうだとしたら、やはり多少は「wood wide web」があるのでしょうか？

このコロナのテーマが重要でなくなる日が早く来ることを望んでいます。しかしその時でも、この日常生活に対する注意深さ、社会的なコンタクトを培うこと、そして、生命を担う大きなリズム、小さなリズムの価値を育むことを続けていけることを望んでいます。

そうそう、私の患者さんは生活のリズムをちょっと変えました。彼女は、犬を連れて男性に会っておしゃべりするために、毎朝ちょっと早く出かけるようになりました。彼女はこの年配の男性の名前と犬の名前も知りました。この男性には娘が３人いて孫も２人います。そして彼は毎年秋になると、森にきのご狩りに行くそうです。



サーシャ・グローア

アントロポゾフィー看護及びリズムカルアインライブングのスペシャリスト。スイス ドルナッハにおいてリズムカルアインライブング、湿布療法及びホメオパシーを実践している。スイス連邦難民センター（Basel）の HF 看護専門看護師。国際アントロポゾフィー看護ゼミナールのメイン講師。

掲 示 板

◎ 公開講座プロジェクト・チーム メンバー募集！

現在、植物観察の大家・丹羽敏雄さんを講師にお招きした講座を計画中です。一緒に、魅力的な公開講座の企画・運営をしませんか？ ご興味ある方は浅野（九州支部、看護ゼミ３期生）asano@stmaryacjp.onmicrosoft.com まで。

◎ 編集部員募集！

JAAN 会報の企画・編集を一緒にして下さる方募集しています。特別な技術がなくても、相談にのってくれるだけでもありがたいです ^^ ご興味ある方は宇野（関西支部、看護ゼミ３期生）saekouno2013@gmail.com まで。

日本アントロポゾフィー看護協会創設に寄せて

浅田 豊

(通訳・オイリュトミスト)

2004 年の春に長野県の水輪において、第一回国際アントロポゾフィー医学ゼミナール (IPMT) が開催され、日本にアントロポゾフィー医学が本格的に紹介される大きなきっかけとなりました。これは主に医師のためのアントロポゾフィー医学の研修講座だったのですが、その他の医療従事者——看護師、オイリュトミー療法士、芸術療法士、音楽療法士、その他の療法士の皆さんも参加され、それぞれの立場からアントロポゾフィー医学を学ぶことができました。わたしの場合は主に通訳にたずさわり、看護の授業と実習の講師、アンネ・ジョリスさんの通訳も受け持ちました。

アントロポゾフィー看護の基礎を講義と実習で学ぶことができたわけですが、アンネさんの心の中には当時からすでに、日本にアントロポゾフィーの看護師協会を作って、アントロポゾフィー看護を日本でも広めて欲しいという気持ちが強くあったようです。そして、最初の頃からこの医学ゼミナールに参加していた看護師さんたちが中心になり、2008 年にはアントロポゾフィー看護を学ぶ看護職の会が設立されました。この会が企画して、翌年には本格的なアントロポゾフィー看護ゼミナールが開講されました。その中でアンネ・ジョリスさんと、しばらく後から加わったサーシャ・グローアさんを中心に、授業と実習が行われ数多くのアントロポゾフィー看護師が養成されました。そしてこの看護職の会は 2021 年、一般社団法人日本アントロポゾフィー看護協会に移行しました。わたしはこの間ずっと主に通訳として、そしてまたオイリュトミー、オイリュトミー療法の講義を通してこの発展に付き添ってきたわけですが、2004 年からの 17 年にわたる歳月の重さを感じています。

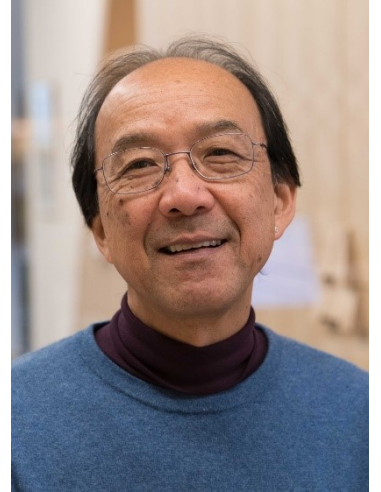
この最初の時期からずっと今まで、日本のアントロポゾフィー看護を育て上げてきた看護師の方々の素晴らしい活動に感謝したいと思います。

アントロポゾフィー医学は今からおよそ 100 年前に、ルドルフ・シュタイナーと、彼の協力者で医師であったイタ・ヴェークマンによって創始されました。この医学運動はシュタイナーの精神科学

(霊学) の認識から生まれてきたもので、同じようにこの認識から、シュタイナー教育、バイオ・ダイナミック農法、オイリュトミーなども発展してきました。この認識によれば、人間は肉体からできているだけでなく、個人個人が自分の魂と精神 (霊) を持っています。そしてこのよ

うな事情も個人が自らの知覚と思考によって認識できることをシュタイナーは示しました。 (「自由の哲学」参照) アントロポゾフィー医学はその後スイス、ドイツをはじめとして世界各国で発展し、病院も作られ、全人的な、愛情に満ちた医療を求める人々に助けを与えてきました。20 世紀後半に大きく発展したアントロポゾフィー医学は、その後 IPMT などの働きにより世界中に広がる勢いを見せました。その反面ヨーロッパでは、様々な理由からアントロポゾフィー医学に対する風当たりも強くなってきており、アントロポゾフィー医療を実践することは簡単ではありません。そしてアントロポゾフィー医学の立場からの、一般に認められている西洋医学に対する働きかけも充分ではありません。通常の医学のウィルスや感染症に対する考え方と、シュタイナー的な感染症に対する考え方とは自ずと大きな相違があるように思われます。

このような状況の中での「日本アントロポゾフィー看護協会」の発足は、とても大きな意味を持っていると思われます。今まで 100 年間のヨーロッパやアメリカのアントロポゾフィー医学の実践と伝統を受け継ぐだけでなく、今までのこの活動が実現できなかった問題や課題を、これから日本で解決し、実現していただけることを期待しています。このような活動は、医療の分野だけでなく、日本の社会全体にも大きな衝動を与えてくれるものではないかと思っています。



国際アントロポゾフィー看護ゼミナール：第3期がほぼ修了しました！

※コロナ禍でカリキュラムの変更が頻発したため、現在は修了に向けて取り残しの単位を取得中

コロナ禍をくぐりぬけて ようこそ！意志を発動した実践へ

揚妻由美子（基礎コース担当スペシャリスト）

当法人の活動の柱は、アントロポゾフィー看護が実践できる看護師を養成することにあります。この「国際アントロポゾフィー看護ゼミナール」は、アントロポゾフィー看護の基本となる考え方と、具体的な看護技術を習得できる、IFAN※認定のコースです。2009年の第1期（法人の前身「アントロポゾフィー看護を学ぶ看護職の会」主催）から13年。2014年～第2期が、2018年～第3期が始まり、今年2022年5月に第3期第4モジュールが終了し、20名が基礎コースの修了を迎えました。

※IFAN：ゲーテアヌム精神科学自由大学医学部門内看護部門アントロポゾフィー看護のための国際会議

3期生は途中コロナ禍と重なり、何度もスケジュールの延期や変更を余儀なくされました。リズムカルアインライビングの技術は身に付けたものの、コロナ禍で思うように施術ができず、課題の症例に取り組むことにも例年以上の苦労がありました。一方、変化もありました。コロナ禍がもたらしたOnlineの普及で、課題の症例発表を同期の皆でシェアする事が容易になりました。時間とお金を節約しながら、同期生の学びを何度も共有できたことは、ありがたいことでした。皆にとって、大きな学びとなったと思います。

修了後は、受け身の学びから、自分の意志を発動した実践へと変容が必要になります。皆さんが受講を決めた頃に抱いた志、それらを実現するための課題は小さくありませんが、課題に取り組む仲間が増える事は熱を蓄えることでもあり希望でもあります。修了生の方々にエールを送ると共に、「ようこそ！」と叫びたい気持ちです。

代表の久保から報告があったように、ゼミナールのカリキュラム見直しが進んでおり、第4期は2024年開催の見通しです。

第4モジュールを終えて

辻 真紀

2018年10月に受講が始まった3期生の国際アントロポゾフィー看護基礎講座も、先日の芸術療法の体験を持って幕を下ろしました。2020年からの受講はコロナ禍にあって豊田が遠のきましたが、今年のGWに開催された第4モジュールは最終日に各支部に集まることができ、久しぶりに合わせる同期の顔に皆笑みが溢れました。

今回は、アントロポゾフィー看護以外の医療の各療法に触れる講義が多くあり、どれも大変印象的で、人を癒し治療をもたらす方法は多様で、さまざまなアプローチがあることを改めて認識することができました。

音楽療法は、体験してみると「響き」は耳や身体だけでなく感情に直接届いてくるようで、言葉にはない温度やベールが感じられ、大変心地よかったです。また心地よいだけでなく、ざらつたように感じる響きや、呼吸が楽になる、あるいはぎゅうっと締め付けられるような響きもありました。奏でる動作は、運動にも似て、手触りも楽器ごとに違いがあり、様々な楽器に触れる楽しさと、どんな楽器を使うかで作用が違うということが体験を通じて実感できました。



絵画療法は、フォルメンやにじみ絵を体験させていただきました。3人で受講したのですが、同じ指示、同じ道具で同じ空間に体験したにも関わらず、最後に並べてみると三者三様の仕上がりができました。私は、自分を繊細で細やかなところがあって、時にそれが自らを苦しめると思っていたのですが、出来上がったにじみ絵を見て「これ誰？」と呟きました。よく言えば元気が良くてダイナミック。率直に言えば、大雑把で肉太の印象の作品でした。あまりにもそれが日常的な自分であったので、気にも留めていなかったのだと思います。割と傷つき



やすい性格なのですが。この講座には、朝、新幹線で駆けつけたのですが、受講を通じて呼吸が整い、自分の元々持っている質や今の心情が表れ、手放して、楽になっていく感覚がありました。

そして、同期の仲間の繊細で美しいにじみ絵は、幅や色の均一さに、彼女たちの心配りが見え、優しい色合いに温かみや優しさ、そして、たくさんの物事を抱えながら懸命に進んでいる姿を感じました。闇の奥から真っ直ぐにこちらに届く光のように美しかったです。絵画療法もとても興味深かったです。

緩和医療は、お話を聞いて打ちひしがれました。私は緩和ケア病棟がある病院で総合内科病棟と訪問看護部に長く在籍していたため、自らが迷い間違いながらしてきた看護を深く後悔していました。しかし、振り返っても、あれはこうすべきではなかった、というところまでで思考が止まっていました。藤原医師が患者さんをファーストネームで呼ばれて相対する姿勢は、一人の人と人が敬意を持って向き合い、助けようとする人への信頼によって結びつき、患者さんのその時の4つの構成要素の調和を目指して苦痛を和らげ、そして離肉への旅路を見送っておられました。自分自身が求めていた姿勢や態度が具現化されていて、こうしたかったのだ、と涙が止まらなくなりました。アントロポゾフィー看護を学び、自分のこれまでの看護を振り返る機会を得て、後悔から顔を上げ、初めて前を向くことができました。

アントロポゾフィー看護の軸を教えていただいているサーシャさんから、死のプロセスを学びました。自我の旅路における死の場面は、その魂の帰路であるように思いました。死の際に魂がよこばしく迎えられることを知って、より現世に得た身体と調和して生きることの温かみを感じることができ、その人を看護しようとするものの意味を考えました。真摯な態度で患者さんの今の姿を捉え、患者さんが自分の中心に留まることができるよう配慮を持つこと、私自身も私の中心を見失わずニュートラルな立場でいることを、とても難しいことでは

あると思いますが、心がけ続けたいと思いました。

この他にも、オイリュトミー療法、痛み、健康生成論、金属の湿布、ハーブティ、ケーススタディなど盛りだくさんの講義内容で大変充実していました。私は、アントロポゾフィー看護を学び始めたのは、まだアントロポゾフィーに慣れ親しんでいない頃でしたので、実はまだまだ自分の体になじんでいないことも数多くあります。ですが、触れるたびに喜びがあり、学びがあり、新たな課題があります。第4モジュールを終えて、私の中に「調和」というテーマを得ました。自分自身の状態を観察し、ニュートラルな状態で調和的にいる、という練習をしたいと思っています。真摯な態度でいることを肝に銘じて。

最後になりましたが、講師・通訳の先生方、日本アントロポゾフィー看護協会役員の皆様、国際アントロポゾフィー看護ゼミナール基礎コース担当の皆様、各支部世話人の皆様、携わってくださった全ての方々に感謝の意を表します。大変お世話になりました。ありがとうございました。

つじまき

山口県出身在住。赤十字看護専門学校卒。赤十字病院勤務後、現在は移動保育室やどり木主催。



アントロポゾフィー医学の視点からの胎生学③

受精～初期発生

産婦人科医、日本アントロポゾフィー医学の医師会会員

小林 誠

胎盤および胎膜の形成と、機能的反転プロセス

人間においては着床後に栄養膜が、胚盤胞から（とても早い発達速度で）遠心的に子宮内膜内へ食い込みながら成長し（図 7、図 9）、子宮内膜は溶解し、胚結節を天球状に周りを取り囲むような覆いを形成します（図 8、図 15）。両生類は水の中で発生し、必要不可欠な物質を環境から受け取り、排泄すべき物質を水の中へと分泌することができます。この意味において（ボールのような）覆いを必要としない両生類とは異なり、人間の胚においては覆うような天球が形成されます。しかしその際には、胚は両生類のように自然の環境に左右されるのではなく、受精卵に由来する胚の一部自身が天球を形成していくのです。

そして栄養膜からは、二つの異なる細胞グループが生まれます。母体の子宮内膜の間質と接触し完全に表面に位置する層は栄養膜合胞体層になり、栄養膜合胞体層はその下に位置する細胞層の栄養膜細胞層から常に再生します（図 8、図 9）。栄養膜細胞層は細胞状に区分され、急速に進行する有糸分裂によって非常に多量に増殖します。栄養膜合胞体層はしかしながら細胞状に区分されていません。繋がっている原始的細胞質の塊で、その中では核は不規則に配分されています。この原始的細胞質塊（合胞体）はしかしながら決して機能的に未分化ではなく、むしろ全ての機能プロセスがここで生じ、その機能プロセスはのちの有機体にラベルを貼ります（栄養補給、呼吸、排泄、コントロール、防御など）。しかしながらその為のどんな類いの臓器も存在しません。この細胞の塊から絨毛形成と構造上の組織化によって後に胎盤が結果として生じ、全ての後の肉体の臓器システム（肺、腎、胃

腸管など）を実行する機能を備えており、これは深い驚きを起こさせる現象です。もし胚が初めから一つの全体と考えれば、有機体は胚の全ての有機体の機能と共に、初めから既に存在し活動しているものの、さしあたりはまだほんの周辺部（天球）内であり、それはつまり器官を抛り所にしなくても生きているのです。人間の初期発生において胚の周囲のこの環境は下等脊椎動物においての状況と異なることは当然のことです。

胚盤の更なる発生、すなわち表面形成の段階から空間形成への、胚盤胞ら 3 次元的な胚子《原腸形成》への移行期であり、まず《天球》である栄養膜内に局在している諸機能のひとつひとつの為に、間葉形成によって発生した胚子の内部空間の中にそれぞれの臓器システム——それは確かに当分の間はまだ機能していないが、しかし発生の過程でその時々々の機能への資質を備えている——が発生することが特徴的です。ボールのような覆いの臓器である周辺から胚の内部へ向かう、それはすなわちひとつの雄大な段階的に実現する反転プロセスです。この《覆い（ボール）》は確かに初めは単に絨毛を形成している栄養膜合胞体層と栄養膜細胞層、疎な胚外間葉組織（図 8）からのみできていますが、胚盤を羊膜や卵黄嚢などであらゆる方面から覆います。しかし既にすぐこの栄養膜の覆いは母体の粘膜に隣接する面で特別な臓器（胎盤）へと分化し、一方、子宮腔に隣接する栄養膜の覆いの部分はますます薄くなり、いわゆる卵膜を形成します（図 15）。

機能的な反転が起こる過程で、胚子（内部世界と外部世界を持つ三次元的な有機体）の形成が始まり、その中で機

能プロセスが、分化しつつある細胞システムと特殊化しつつある臓器の中で段階的に働き始めるのです。（図 16）。

神経形成と共に始まる胚発生の第 4 段階が羊膜と卵黄嚢腔の間の境界面上（胚盤葉）で内部構造の解体へと導き、それはつまり今発生しつつあり大きくなりつつある胚子の内部で臓器システムと諸臓器の形成へと導き、胚子のために同様に大きくなりつつある羊膜腔が場所を確保する役を担うのです。始まりつつある発生を通して、周辺で起こりつつある胎盤形成の諸プロセスと、胚子の内部空間の中で進行する発生事象の間でひとつの交換が実現し、その交換のために、栄養膜細胞と胚の間に広大でタンパク質に富んだ間質を伴う疎な網目状の細胞組織である胚外間葉（絨毛膜腔；図 8、図 9）が独立します。この《スポンジ》のような絨毛膜腔は、さしあたり全ての周辺領域から胚への輸送プロセスを担い、胎盤にもまた血管を供給する固有の血管システムが形成するまで機能した後、衰退します。胚から芽生える血管はその内容である血液と、当面まだ完全に胚の外の領域に留まったままである心臓と共に、胚から発生する最初の臓器システムであり、その臓器システムは胚内で進行しつつある発生プロセスと、覆いの臓器である胎盤内でつまり周辺環境内で進行しつつある機能プロセスの間の仲介を引き継ぎ、それと共にこの両者間の機能的な橋渡しを構築します（図 17）。

神経胚形成（第 4 段階）が始まった後に個々の臓器と個別の組織が胚の内部で発生すればするほど、周辺環境の機能プロセスが胚の内部へ飛び移ることができるようになり、反転事象は終局を迎えるのです。それと共に胎盤が徐々に壊死するのが避けられず、最終的には分娩によって剥離させられるのです。分娩は結局、初めに全てを包括的に機能させている周辺環境から機能プロセスがずりりと抜け出て肉体へと移り変わることであり、肉体は同様に一步また一步と時間的に相前後してこの諸機能を引き継ぐのです。

その際にしかしとても大きな変化が起きます。栄養膜細胞層やあるいは後の胎盤の覆いの中では、空間的なあるいは区域的に個々の機能プロセスの分化はどこにも存在しません。ここではまだほとんど理解できないような素晴らしい生命プロセスの統一が現存しています。それに対して生まれたばかりの有機

体内では、生命プロセスのための三つの大きな基本プロセスはその都度、別個の臓器システムを形成させ、成人した有機体においては機能的三分節機構として特徴付けられます。周辺の機能的統一体から胚の有機体内に三分節機構が生じたのです。情報プロセス（神経系）と代謝プロセス（代謝系）は対極的に相対峙し、リズムカルな機能（心循環系、呼吸など）を持つ臓器システムが仲介するように（緩和するように）中間に形成されます。胚の折り返しが必然的に再組織化あるいは再編を伴うのです。

初期胚発生と 7 日間のリズム

胚発生の第四段階（神経胚形成）と共に、既に述べたように、最初の特異化させる発生が始まり、それと共に時間の要素が現れます。

初期発生の時間的な状況を振り返ってみると、多くの生殖のプロセスに備わっているように、まずはっきりとした 7 日間のリズムが明らかになります（表 3）。第 1 段階（桑実胚形成）は人間においては 5～6 日間続き、受胎（受精）後 6 日～7 日目に着床が起こります。つまり胚盤胞が子宮内膜の中へ侵入するのです。

第 2 週には胚結節がふたつの原始的な小胞（羊膜腔と卵黄嚢）を形成する間に、とりわけ栄養芽細胞層がより大きくなり、胚のための《天球》を形成します。これは人間においては第 2 段階（狭義の意味での胞胚形成）でしょう。

第 3 段階（原腸形成あるいは原始溝形成と陥入プロセス）は 14 日目に始まり、三胚葉（外胚葉、中胚葉、内胚葉）の形成へと至ります。18 日目と 21 日目の間に神経溝形成の段階に達します。先行した間葉形成を通して最初の 3 次元的な胚の身体が発生します。

第 4 週に初めて原始的な器官原基の形成が終わり、人間の《身体の基本的な形態》の素質が備わるのです。それと共に我々は第 4 段階（神経胚形成）に到達し、それは分娩まで継続し、その中で臓器や組織の形成、最後には特殊化した細胞の発生をもたらします。胚の身体の内側での機能

的な分化の始まりと共に造形プロセスが行われ、同時にではなく時間的に区分されて進行するのです。

生体固有の臓器システムの発生

血液と血管は、最も初期の生体固有の機能的な臓器システムの原基の一つです。血液と血管系は既に 13～15 日目の間に卵黄嚢上や周りを覆う絨毛の中に出現する血島から発生します（図 17）。第 3 週の終わりに、まだ胚盤の外側に、原始心筒が発生し、そして卵黄嚢や附着茎、胚膜の血管に接続するようになります。遠心的に増大する胎膜の《天球》の中でのプロセスと、胚盤の中で進行し求心的に向かうプロセスの間で発生する対立関係の中で、21 日目頃に中心部と周辺部の間を結ぶ血液の流れが発生します（図 17）。それに続いて、心臓の原基がリズムカルに収縮し始め、それによって秩序の要素が流動事象の中へ入り込みます。心臓循環系はそれと共に叙々に機能するようになり、周辺と中心部の間、胚膜と胚盤の間、《分化されていない天球》（栄養芽層の領域）の機能プロセスと胚盤や胎児の領域内の分化された臓器形成プロセスの間を繋ぐことができるようになります（図 16、図 17）。附着茎あるいは後の臍帯はこれらの移行のために、つまり周辺のプロセスから胚の固有空間の中で起きるプロセスへの機能的な反転のために、誕生に至るまで生理的な橋を形成するのです（図 16、図 17）。

心臓循環系は既に発生初期に設けられ機能し始めるのですが、出生後に初めて完全に機能するようになり、呼吸が周辺（胎盤）から肺に移動して初めて、機能的な反転プロセスが終結します。出生後に初めて、循環系と呼吸系が地上での生活にとってふさわしい方法で機能するようになるのです。心臓と循環系が誕生後に胎児循環から成人循環へ切り替わると、つまり肺が肺呼吸を始め心臓の分離が完結すると、一、新生児は生育可能になるのです。そして、その真ん中のふたつの臓器システム（心臓、肺）を通してまさに地上での生活が可能になるのです。

次に神経系と代謝臓器が機能し始めます。両者ともに、特に神経系は、出生前に既にある程度発達しており、出生前

（妊娠 3 ヶ月頃から）最初の反射が出現することもあります。神経系の先行する発達は分娩後の生命に不可欠な反射（把握反射、吸引反射）の初期の発達だけでなく、後に組み込まれる人間の精神的な発達をも可能にします。大きな感覚器は生まれて最初の 1 ヶ月はまだ完全には機能を果たしません。中枢神経系の運動中枢は次第に、つまり四肢の運動機能との関連で 1 歳までの間に成熟します。二番目の門歯が生え出始め、肉体的な発育が最初に完了すれば、6 歳の子供は就学できるほどに心身ともに発育するのです。

胃腸管は最初はゆっくりと地上の栄養素に慣れなければならず、完全に機能を果たすためには比較的長い時間を要します。

それに対して排泄臓器（腎臓など）は出生直後すぐに機能し始めます。しかし子供が尿や便を自分の意志によって排泄するのを学ぶには長くかかります。泌尿生殖器の一部である生殖器官は性的成熟の後（12 歳から 14 歳）になって初めてその特有の機能を発揮し始めます（図 18）。防御が貢献する免疫系の器官（胸腺、脾臓、リンパ臓器）は出生後になって初めて分離独立します。確かにリンパ器官は出生後すぐに（外来物質と接触することを予期して）特有な防御プロセスの《習得》し始めますが、生殖器とは対照的に、例えば胸腺は既に 14 歳から 16 歳以降は再び退化し、それはつまり免疫系の機能的な活動性はこの点で、徐々に衰え始めます（図 18）。

運動器は最も遅れて発育する肉体の器官システムです。誕生の際にはまだほんの少ししか発達しておらず、ぎこちないこのような動きにしか適しておらず、約 1 歳から 1 歳半に体の直立を持って、最初の大きな運動器官の発達の歩みが始まります。その後に、それに続き相前後する第 1～第 3 七年周期のリズムカルで急激な成長の中で四肢は 20～24 歳頃まで成長し、その後は成長は終わりを告げます。

体に結びついた機能の掌握はそれと共に三つの大きな段階の中で生じます：

第 1 段階：出生直後に中部臓器（心循環系、呼吸器系）はその最終的な機能を始め、死に至るまでこれを維持します。

第 2 段階：対極的な臓器システム（神経系、代謝系）は徐々に機能し始め、地上での任務を掌握していきます。

第 3 段階：三分節化された人間有機体の 3 つの大きな上位の臓器システムは生後徐々に成熟する器官と細胞を援助しながら、多くの機能もまた機能を果たし始め、それと共に人類の発生がある程度完了するのです。

胚発生の精神科学的観点

地球発生の前段階

興味深いことに R.Steiner は 4 つの大きな惑星の発生段階という言葉を用いています。三つの惑星の段階が地球の発生に先行するのです（神秘学概論）：

1. «土星期»土星の発生の間は人間の肉体が形成されます。生命や魂的 inner 生活はまだ存在しません。「その状態を思い浮かべるには、多数の粒からなる野いちごを考えれば良い。超感覚的認識から見たこの進化期の土星は、そのような個々の土星存在からなる構成体である。もちろんそれぞれの土星存在は、固有の生命、固有の魂を持っているわけではなく、その居住存在達の生命と魂とを反射しているだけなのである（神秘学概論、高橋巖訳、ちくま学芸文庫、p168）»。

2. «太陽期»太陽期では人間は、「既に土星期で胚の原基の中に形成された肉体が」、、「生命の担い手、あるいはエーテル体の担い手になり」、、「同時に人間の胚の中で内部の流動的な最初の現象が現れ：生命が始まるのです」。土星の段階では桑の実のような生命のない«暖かい卵»であったものが、太陽期では動いて生きている形態、「その動きは植物の樹液の動きと比較しうるものです」。

3. «月期»月期には人間存在への«アストラル体の流入»が始まり、それによってこの«始めて魂の特性»を獲得します。生命体を獲得した人間存在の動きは、太陽進化期にはまだ植物的でしかなかったが、その動きが感覚体験を持つようになり、それを通して快と不快を感じられるようになります」。

月期にはそれと共に人間の胚の内部で最初の動物的な感情生活が始まります。植物的な外に向かう存在は内部での

独自の生活を通して交代させられ、その中に感情や衝動が現れます。それはまさに折り返し（反転）がおきるのです。

土星期では熱のようなあるいは火のような物質だけが存在し、太陽期では気体に類似したあるいは光に類似した何かが、月期では今日の水に相当するものではない物質で、その質がある種の«水のようなもの»へ次第に物質が濃縮したのです。

4. 地球期。最後に四番目の惑星段階が地球期で、地球の発生はしかし再び直接的にではなく、前の三つの惑星段階の繰り返しの後に初めて始まります。この前段階の後に本来の地球の発生が始まり、その中でさらなる物質の濃縮が鉱物的な固体に至るまで行われるのです（神秘学概論）。

地球の発生と人間の胚発生の比較

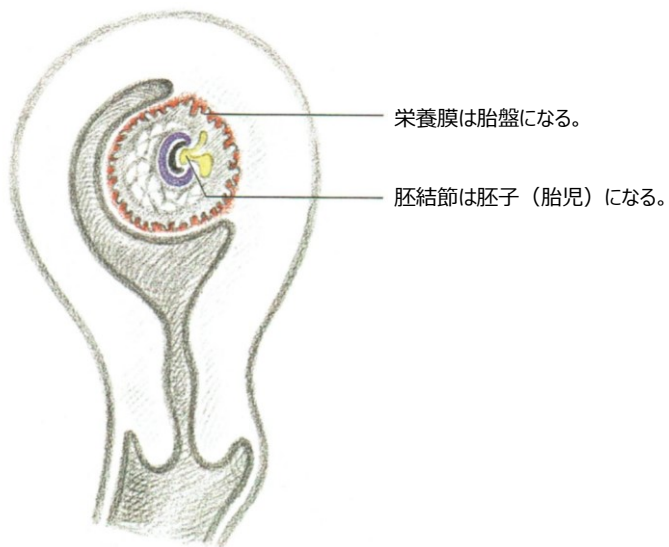
人間の胚発生は、上述した惑星の発生 of 4 段階をはっきりと反映しています（表 4）。桑実胚は«土星期»に相当し、着床後に人間の胚の内部で植物のような生命の一種が体液の流れにおいて始まり、小胞状の空洞（卵黄嚢、羊膜腔）が発生します。内部機構はまだ存在しません。人間の本性はまだ周辺に胚の覆いの中に小胞の表面に反射しています。胚葉と共に胚盤は平面的な形成物であり、「原始葉»あるいは«原始植物»の一種を表しており、それは内部表面を持つ内部機構や内部臓器が欠けています。

原腸形成と共に第三段階（月期）に到達し、人間の胚においては原始結節や原始溝の発生が始まり、体節の崩壊と間葉形成を通して初めて三次元的な胚の体の形成に到達します（表 2）。これはある意味では本来の«動物になるプロセス»でしょう。

分娩と共に初めて本来の地球段階（人間的な段階）に到達するのもかもしれません。今や人間は固体の地球に足を踏み入れて、初めて地上を覆っている空気を呼吸せんと、産声をあげるのです。

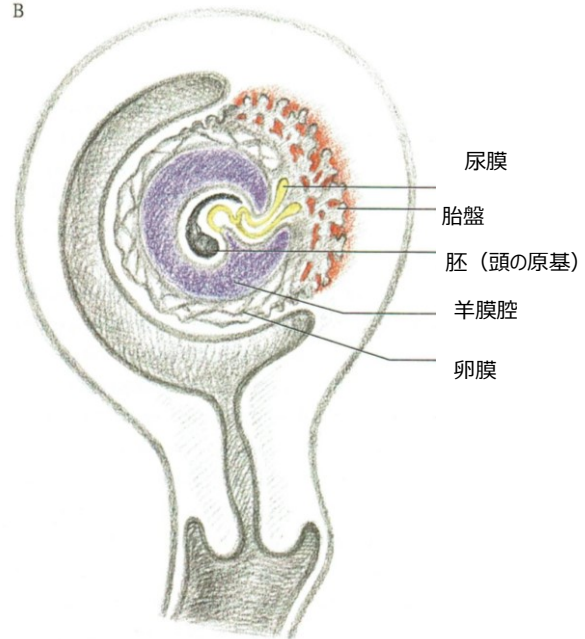
図 15 栄養膜のさらなる成長

A



A : 胎生 17 日目の胚

B



B : 約 4 週（22~28 日目）の胚

栄養膜は最初はまるで光冠（コロナ）のようにあらゆる方面に胚結節を取り囲み、しかしそれから子宮壁側の領域で集中し、ここで胎盤へと分化します。栄養膜のそれ以外の部分は子宮内膜（脱落膜）と羊膜と共に卵膜を形成します。

図 16 絨毛膜から臍帯を介して羊膜腔の中に浮かんでいる胚子肉体内への機能的諸プロセスの折り返しを通してのヒト胚子の形成（6 週、約 41 日目、10mm）

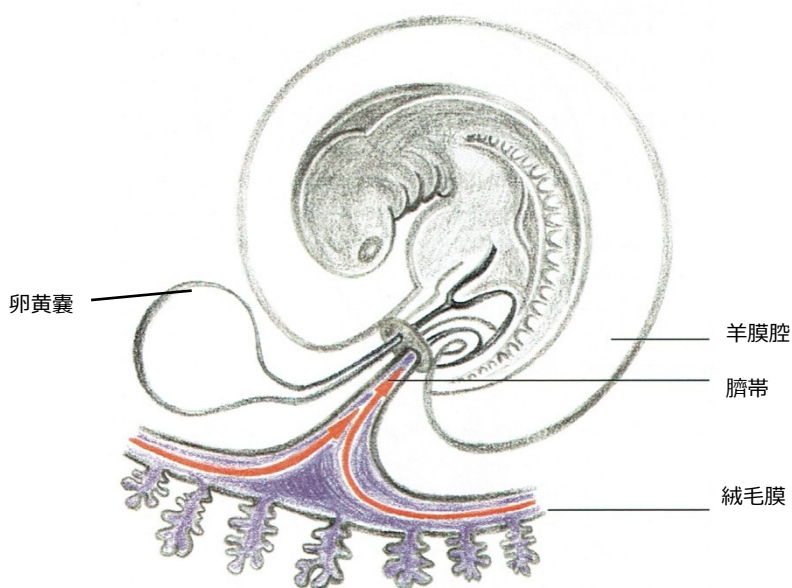
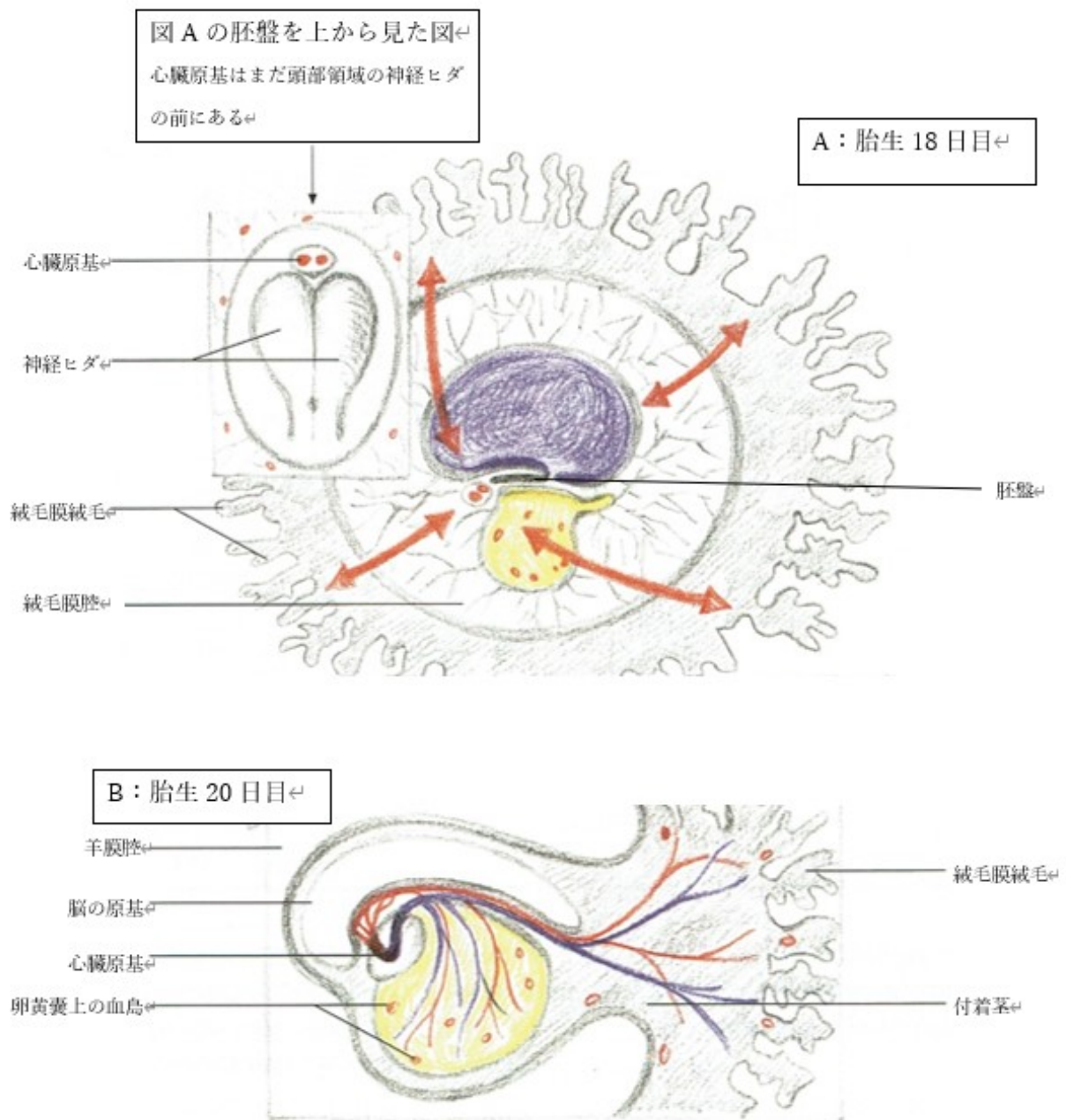


図 17 心循環系の発生

循環系は最初に機能する臓器システムであり、それは栄養膜に由来する絨毛の天球と胚の原基との間の連絡を確立します。両領域内の間の機能的な圧力から生じた最初の体液の流れは矢印によって概略が示されている。後に臍帯になる付着茎は橋渡しの役割をする。血液の源泉の場所は卵黄嚢上や絨毛内の血島です。心臓原基は当面は胚盤の外側に位置しており（図 A、18 日目）、それからしかし首の領域内の脳の原基の下へ移動します（図 B、20 日目）。



心臓循環系の発生段階

13～15 日目：血島が卵黄嚢上や付着茎内、絨毛膜内に現れる

17 日目：最初の血管が形成する

20 日目：原始心筒が現れる

21 日目：心臓原基が血管と接続する。循環が始まる。

22 日目：心臓が脈打ち始める。

図 A の胚盤の俯瞰。心臓原基は未だ頭部領域の神経ヒダの前にある

表3 初期ヒト胚発生の7日間のリズムと人間の構成要素との関連

段階	受精後の日数	時 期	特 性	人間の構成要素
Ⅰ	1～3 日	卵割（桑実胚）	熱のボール	肉体への足がかり
	3～6 日	胚盤胞	「天球」 未だに成長はない	
	6～8 日	着床		生命体の侵入
Ⅱ	8～12 日	羊膜腔と卵黄嚢	植物のような発芽	
	12～14 日	原始線条	折り返し	魂的なものの侵入
Ⅲ	14～17 日	中胚葉形成 （軸になる臓器）	動物になること 内部臓器の発生	
	18～21 日	間葉形成 （神経溝）	誘導プロセス	「自我機構」の 最初の定着
Ⅳ	22 日以降	胎児肉体形成	人間になる始まり （自我の発生）	

図 18 出生後のヒトの様々な臓器システムにおける大きさの発達の比較

成人における重さを 100% にしてあります。神経系と感覚器官は早い時期に発達し、生後 7 歳（A）までにほぼ最終的な重量に達します。生殖器官の発達が第 2 七年期（B）にまだ抑制されているのに対し、リンパ器官は第 2 七年期を通して溢れ出るような発達期を迎えます。腸管系は完全な機能に成熟するまでは比較的長くかかります。肉体の成長は第 3 七年期の最後（C）に完了します。

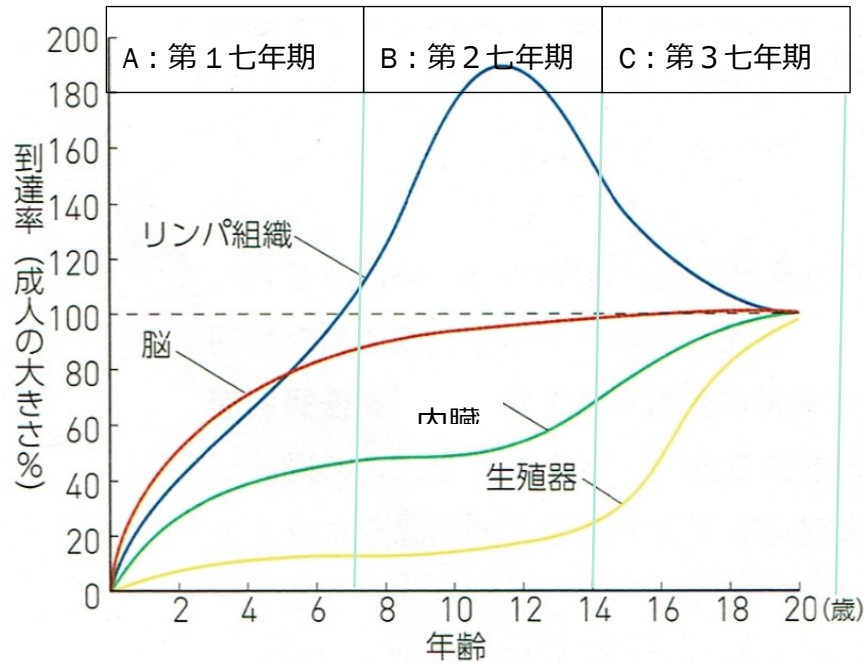


表 4 ヒト胚の発生段階と地球の惑星的前段階との関連 (R.Steiner 神秘学概論より)

段階	胚の発生段階	ヒト胚の構成要素	惑星段階	宇宙の実体	類似の自然界
第 1 段階 (点)	桑実胚形成	肉体	土星期	熱のようなもの	鉱物的な段階
第 2 段階 (面)	胞胚形成	生命体	太陽期	大気/光のようなもの	植物的な段階
第 3 段階 (空間)	原腸形成 (胚形成)	魂 (アストラル体)	月期	液体のようなもの	動物的な段階
第 4 段階 (空間と 対空間)	胎児の誕生まで	自我	地球期	固体	人間的な段階

オンライン交流会はじまりました！

コロナ第 7 波の中、なかなか気軽には集まることができない日々が続いています。こんなご時世だからこそ、つながりあっていけるよう、会員同士の交流の場を創りたい！ということで、試行的に 8 月 28 日の朝、オンライン交流会を開催しました。

急な呼びかけにもかかわらず、10 名が集い、それぞれの近況などをシェアすることができました。ご参加いただいた方からは、ご感想や印象に残ったこととして、

- ・ 皆さんの考えていることなどお聞きすることができてよかった。
- ・ 皆さんの「看護」に対する誠実さが印象に残った
- ・ 参加者の皆さんの考えていることをうかがい、自分の考えが動くこと。
- ・ 皆さん、いろいろな健康問題や将来の展望に対する不安を持たれているなあと感じました。
- ・ 集まった人々が創り出す場のエネルギーがあるように感じました。

などのお言葉をいただきました。ご参加いただきました皆さま、ありがとうございました。

次回は、**9月23日（金祝）午前9時～10時30分**に開催します！

ざっくばらんに、近況や最近感じていること、探求していることなど語り合えたらと思っております。時間は 90 分ほどを予定しています。お申込みは不要です。ズームリンクは会員メーリングリストにてお知らせします。皆さまのご参加をおまちしています。

交流会担当 宇野

編集後記：お待たせいたしました！ 会報第 2 号をついにお届けいたします。「季節毎に発行ができるといいなあ」と思いながら、第 1 号から実に 1 年以上が経ってしまいました。ごめんなさい。現状 1 人で編集しているため、無理のないペースと発行の方法とを模索中、そして一緒に模索して下さる方を募集中です ^ ^ 皆さま、どうぞよい秋をお過ごしください。ご寄稿・ご要望・ご連絡は、saekouno2013@gmail.com まで。